

平成**28**年度

**農山漁村女性・シニア活動表彰  
農山漁村男女共同参画優良活動表彰  
活動概要**



# 平成 28 年度農山漁村女性・シニア活動表彰

## 目的

農山漁村における女性や高齢者といった地域の多様な人材は、農山漁村を支え、農山漁村生活の充実と地域経済の活性化に重要な役割を果たしており、農山漁村の6次産業化、食の安全・安心の観点からも、これらの活動が活発になるように支援していく必要がある。

このため、農林水産業及び農山漁村生活並びに農山漁村の活性化に優れた活動の実績をもち、男女共同参画の推進又はいきいきとした高齢者の活動の推進のために積極的に活動している経験豊富な女性・高齢者の個人又は団体を表彰することにより、女性や高齢者といった地域の多様な人材が農山漁村でいきいきと活躍できる環境づくりの推進に資するものとする。

## 受賞個人・団体

### 最優秀賞

#### (農林水産大臣賞)

A. 女性地域社会参画部門	・茨城県 神栖市 原 範子
	・群馬県 みなかみ町 鈴木 春美
B. 女性起業・経営参画部門	・群馬県 前橋市 富士見農産物加工組合
C. シニア起業・地域活性化部門	・三重県 伊賀市 特定非営利活動法人 あわてんぼう
	・岩手県 釜石市 藤井 サエ子

### 優秀賞

#### (経営局長賞)

A. 女性地域社会参画部門	・山梨県 甲州市 三森 かおり
	・鹿児島県 日置市 迫 千穂子
	・兵庫県 伊丹市 小西 和子
B. 女性起業・経営参画部門	・佐賀県 太良町 工房 みかんの里
	・長野県 御代田町 味工房「みよた」
	・京都府 京都市 樹々の会
C. シニア起業・地域活性化部門	・福島県 伊達市 山舟生羽山生活改善グループ
	・愛知県 設楽町 名倉高原生産組合
	・宮城県 川崎町 川崎町生活研究会
(林野庁長官賞)	・岡山県 新見市 山口 紀久子 (A. 女性地域社会参画部門)
(水産庁長官賞)	・秋田県 八峰町 岡本 リセ子 (B. 女性起業・経営参画部門)

### 優良賞

(全国森林組合連合会長賞)	・石川県 穴水町 谷口 藤子 (C. シニア起業・地域活性化部門)
(全国漁業協同組合連合会長賞)	・福井県 おおい町 子末 とし子 (A. 女性地域社会参画部門)
(全国農業協同組合中央会長賞)	・宮城県 石巻市 高橋 千代恵 (A. 女性地域社会参画部門)

**主催** 農山漁村男女共同参画推進協議会

**後援** 農林水産省、全国森林組合連合会、全国漁業協同組合連合会、全国農業協同組合中央会

**特別協賛** 公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

# 農山漁村女性・シニア活動表彰

## 農林水産大臣賞

### A. 女性地域社会参画部門



農村女性の元気を  
地域へ運びます

## 原 範子 茨城県 神栖市

昭和53年に結婚し、非農家から就農。夫婦二人三脚で農業経営に取り組み、平成5年に茨城県女性農業士に認定、平成12年に家族経営協定を締結、平成17年には地域農家とのエコファーマー共同申請、平成19年には夫婦連名による認定農業者の共同申請を進めてきた。農村女性の資質向上、後継者育成、地域農業の振興等に幅広く活躍し、平成12年からは小中学生を対象に、食農教育活動として毎年出前講座を開催。また、農業委員をはじめ、神栖市男女共同参画審議会会長、茨城県農政審議会委員、ふるさとづくり有識者会議委員、全国生活研究グループ連絡協議会会長等を歴任し、県政や国政へ農村女性の代表として意見や提言をするとともに、女性の能力活用、職域拡大に尽力。「女性の元気が農村を変える」という思いを常にもち、自らの学びと前向きな活動を進め重責を全うする姿は、他の女性農業者の模範となっている。

## 農林水産大臣賞

### A. 女性地域社会参画部門



女性農業委員登用要請を推進!

## 鈴木 春美 群馬県 みなかみ町

JA利根沼田女性部長就任を機に、女性が積極的に活躍できる環境づくりのため、JA常勤役員と女性部員の意見交換会を定例化させるなど、女性の声が活かされる環境を確立。また、女性理事登用の要請と、勉強会・研修会等の開催により女性理事数の増加に貢献。「ぐんま農村女性会議」の会長就任を契機に、女性農業委員のいない市町村の解消に向けた積極的な要請を行い、地元の市町村で3名の女性農業委員を誕生させるなど農業分野の男女共同参画推進に貢献。また、自身もみなかみ町農業委員として地域の家族経営協定の推進等に取り組むとともに、JA関東甲信越地区女性組織連絡協議会会長、JA全国女性組織協議会会長他、幅広く多数の委員等を務め、女性の感性を活かした農業の推進や地域の発展、男女共同参画社会の推進などを目指して精力的に活動。多くの女性農業者の励みと模範になっている。

## 農林水産大臣賞

### B. 女性起業・経営参画部門



女性パワーで拓いた直売所

## 富士見農産物加工組合 群馬県 前橋市

平成3年に味噌づくりと地域農産物を原料とした特産品の開発を目的に女性だけの組合として発足。消費者の信頼に応えるため、「100%地元産」という厳しいルールを定め、地産の徹底を図った。平成5年に新たに加工所を併設した直売所を開設。運営管理を加工組合の女性が全て担い、併せて定年制度や退職金制度の導入など働きやすい環境を整備した。また、加工体験教室の定期的な開催、学校給食への食材提供、保育園へのおやつ提供など、消費者との交流を積極的に行い、買い物弱者である高齢者への訪問販売など、交流や定期的な見守りにつながる社会活動に貢献。一方、「富士見村農業・農村男女共同参画推進事業地域検討委員会」の委員等、男女共同参画も積極的に推進。女性の運営する加工組合の先駆けとして、若い女性農業者への指導や資質向上支援等も積極的に努め、担い手育成にも力を入れている。

## 農林水産大臣賞

### C. シニア起業・地域活性化部門



人を元気に むら 地域を元気に!

## 特定非営利活動法人 あわてんぼう 三重県 伊賀市

過疎化や少子高齢化、獣害に苦しむ地域の中で、高齢者の豊富な経験や女性目線で課題を解決し、地域住民が健康で安心して暮らせる里づくりに取り組む。法人設立から運営まで女性が中心となって行っており、閉園する保育園を山里レストランとして開設、あわ(阿波)てんぼう(展望)の活動拠点とし、地域の食材を使った料理を提供するとともに、高齢者世帯への宅配弁当など、地域の生活ニーズに応える。また、地元の高齢者や女性が生産する食材を積極的に利用、食材提供の場があることで、地域生産者の営農意欲の向上にも貢献。地域住民のリクエストにも応じたメニューや、シカ肉を活用したジビエ料理は好評を得ている。また、そば打ち段位を取得したメンバーによる手打ち蕎麦の提供や体験指導など、地域資源を活かした季節ごとの企画や観光体験プランとのコラボ企画などによって、遠方からの来訪者やリピーターも創出。地域の集いの場・賑わいの場となっている。

# 農山漁村女性・シニア活動表彰

## 農林水産大臣賞

C. シニア起業・地域活性化部門



創作農家こすもす  
レストラン前にて

## 藤井 サエ子 岩手県 釜石市

平成12年に実家の遊休農地に景観作物としてコスモスを植栽、地域内外の人々を楽しませるとともに、平成13年近所の農家10人で「ミニ産直コスモス」を開設し、押し花など各種体験教室、餅・団子等の加工品の製造販売を経て、平成19年に「農家レストランこすもす」を開業。東日本大震災後に一旦休業するも、地域住民からの要望を受け2か月後に再開。兼ねてから準備していた民泊許可を取得し、市内外からの復興ボランティアを受け入れる。一方、仮設住宅の設置により子供達の遊び場が減ったことを懸念し、地域住民や復興ボランティアの協力を得て、遊休農地(コスモス畑)を公園として整備、隣接する工場の壁に「希望の大壁画」を作成するとともに一般に開放した。公園は子供たちの遊び場としてはもちろん、各種イベントが開催され、県内外から年間4万人が利用する地域の観光拠点の一つとなっている。

## 経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



女性農業者向けセミナーの開催

## 三森 かおり 山梨県 甲州市

農家に生まれ育ち、農業後継者との結婚を契機に就農。次世代の後継者作りと事業拡大を目指し、平成18年に「有限会社ぶどうばたけ」を設立。直売や果樹の加工品販売による観光農園、甲州ブドウを主としたワイン醸造及び販売などの他、農業や農村の魅力を発信する取り組みとして、県内初となる農家体験民宿も経営。一方、地域の将来を見据え、平成23年に「NPO法人えがお勝沼」を設立し、子牛放牧による耕作放棄地の解消や都市農村交流プログラムを提供、平成25年には、定住・交流人口の増加を目指して「未来を紡ぐ勝沼協議会」を設立。親子での農作業・農産加工体験や地域の歴史勉強会を開催。平成19年山梨県指導農業士に認定、平成20～24年には県総合計画審議会委員、平成22年には農林水産省食料・農業・農村政策審議会委員、現在は、一般社団法人日本農業法人協会理事、内閣府規制改革推進会議農業ワーキンググループの専門委員など、女性農業支援のため多方面かつ積極的に活躍している。

## 経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



飼養管理作業中

## 迫 千穂子 鹿児島県 日置市

昭和50年に結婚と同時に就農。当時女性としては珍しかった大型機械の免許を取得し、夫とともに酪農経営に従事。経営を法人化し、現在規模は4倍、売上げは6倍となっている。その傍ら、平成7年に仲間と「吹上地区女性政策研究会レディースアップカルチャー」を結成。女性の声を施策に反映させようと学習し、地区内外で農業委員や議員への女性の参画の必要性を訴え、農村女性の資質向上、社会的評価の向上に尽力。取組により、県の女性農業委員は平成27年9月には79人と全国でもトップ10に入り、自身も議会推薦で2期、現在公選で3期目を務める。また、町初となる夫婦・後継者間での家族経営協定を締結し、地域をはじめ県内外で家族経営協定の必要性の普及と定着も図る。また、県農村女性リーダーネットワーク、鹿児島県酪農協同組合本所女性部の設立など、女性農業者の資質向上、情報交換の場としてのネットワーク作りにも尽力している。

## 経営局長賞

A. 女性地域社会参画部門



農産加工品で  
都市農業を発信する小西氏

## 小西 和子 兵庫県 伊丹市

昭和43年から農業に従事。県下初の女性の農業共済損害評価会委員に就任し、女性視点の提案やきめ細かい活動によって女性委員としての存在感を高め、市では12地区から選出される委員の約半数に女性委員が登用された。また、「兵庫県都市農業振興基本計画検討会議」委員として、女性農業者の立場と自身の活動経験を生かした視点で、都市農業における問題点や消費者交流の促進等、都市農業の振興方策について積極的に提言している。また、市で初めて家族経営協定を締結した経験を講演などで県内外へ発信し、市内で新たに4戸の家族経営協定締結に貢献。平成18年度には、地域特産物づくりを通じた地産地消を推進するため「伊丹農産物加工グループあゆみ」を組織し、地元産農産物を使った加工品の商品化を実現。現在も、女性の社会参画や自主性を高める場づくり、起業活動による農家女性の所得向上に貢献している。

# 農山漁村女性・シニア活動表彰

## 経営局長賞

B. 女性起業・経営参画部門



世代間を超えた  
楽しいグループ！

## 工房 みかんの里 佐賀県 太良町

伊福生活改善実行グループから発展して結成された太良町で唯一の農産物加工組織。太良町地域興し活動による農産物直売所建設を機に、20代～60代の19人により結成された。加工品開発については、昔ながらの饅頭や餅のほか、太良町特産のみかんを取り入れた商品開発に力を入れており、新商品を次々に開発している。また、農家の知恵と技を町内の保育園、小学校に教えに行くなど、町内の地域住民、保育園及び小学校との交流会や農作業体験を実施して、地産地消・食農教育にも取り組んでいる。また、幅広い年代を超えた会員間の融和を図るとともに、特産物直売所「たらぶく館」を核に他の出荷者とともに消費者との交流を図り、地産地消や、食農教育に継続的に取り組む等、太良町内の農村女性活動の先頭に立った活動を展開している。

## 経営局長賞

B. 女性起業・経営参画部門



味噌加工の様子～麹づくり～

## 味工房「みよた」 長野県 御代田町

平成14年の団体設立以来、「地場産物を安全・安心な加工食品として地域の食卓へ届け、その技術を伝えながら仲間作り・地域づくりを行いたい」との理念を掲げて活動。御代田町における6次産業化の先駆けとなる。初年度7トンの味噌生産から始まり、平成27年度は11.3トンと大きく増加、加工品目も多岐に及ぶ。生産する3種類の味噌と、町で生産された糖度の高いかぼちゃを原料にした焼酎は町認定の特産品に指定され、地元はもちろん観光客にもお土産や贈答品として人気がある。また、味噌や野菜の加工品を学校給食の材料として納入、町や農業団体が開催するイベントに地元産野菜と合わせて販売するなど、地産地消の推進・食育分野でも大きく貢献。会員向けの販売や学校給食等への納入を中心に、原材料費や団体としての活動費を賄い、収支バランスよく安定した活動を続けている。

## 経営局長賞

B. 女性起業・経営参画部門



菌床舞茸の伏せ込み

## 樹々の会 京都府 京都市

平成11年に結成。女性林業研究会のさきがけとも言えるグループ。女性の目線、女性の立場から森林資源の利活用や森林整備などの実践活動を行うとともに、森林・林業や木材利用についての知識を深め、「木のまち・京北」のPRを広く行うなど、その活動は地域に大きな刺激を与えている。地域の特産物を目指したマイタケ栽培と研究にも長年取り組み、他都市との「マイタケ交流会」を開催。京北地域で自生しているクロモジ(クスノキ科落葉樹)の機能性成分に着目した加工品も開発し、平成27年度には健康茶、飴、入浴剤等を商品化、新たな森林資源の用途開発と地域活性化に大きく貢献しているとともに、この商品の売上げの一部が京都市の森づくりのために寄付され、森林保全などに役立てられている。また、地域のイベントにおいて、林産物やその加工品を販売し、農山村の恵みを都市住民に紹介するなど、農山村と都市を結びつける役割も果たしている。

## 経営局長賞

C. シニア起業・地域活性化部門



ふるさと  
故郷の手料理を食べに  
来らんしょ

## 山舟生羽山生活改善グループ 福島県 伊達市

昭和61年に発足。地域の食生活改善活動と、地場産物の活用や伝統的な食文化を次世代へ継承することを中心に30年にわたって活動している。グループの要である会長の秋葉初子氏は90歳。平均年齢70歳のグループを力強く牽引する。地場産物を活用した地域の特産品開発として、食品添加物を使わない漬物「羽山(はやま)漬け」の開発や、地域の特産品「あんぼ柿」を使った懐石料理の開発に取り組み、地元の子供たちに郷土食に関心を持ってもらうため、あんぼ柿の料理コンクールでは、小学校6年生にも審査員を依頼するなど、地域住民や小学校と連携し、活動を行っている。平成17年からは、地域の産業伝承館の管理委託を任せられ、農家レストランの運営では、「食品添加物を使わずに地場産物を調理し、安全で美味しいものを皆さんに食べてもらいたい」と梁川町の伝統料理や、野菜料理を提供する他、かつて盛んだった当地の養蚕文化について子供たちに伝承する活動も行っている。

# 農山漁村女性・シニア活動表彰

## 経営局長賞

C. シニア起業・地域活性化部門



品評会開催で農産物  
栽培技術向上

## 名倉高原生産組合 愛知県 設楽町

平成 11 年に営業を開始した「道の駅 アグリステーションなぐら」の管理団体として設立。道の駅の農産物直売所の集客力を高める事業を主な活動とし、女性起業グループが商品開発した「エゴマだれ五平餅」を道の駅の看板商品にするため、組合員もエゴマを栽培するように働きかけて増産を進めた。これにより、女性起業グループが、新たな商品も開発するなど成果をあげてきた。組合員の 8 割以上が 65 歳以上だが、地場農産物を増やすために、野菜栽培講習会、農産物品評会を開催するなど組合員の栽培意欲の向上に務め、9 割以上の組合員が直売所へ出荷するなど、組合員が一丸となって名倉地域の農業振興に貢献している。また、消費者との交流を図るために取り組んだ「栽培指導付き貸農園」事業では、直売所の顧客獲得に加えて、直売所に出荷できるトマト農家を輩出するなどの成果も上がっているなど、農業の魅力発信や理解促進に繋がっている。

## 経営局長賞

C. シニア起業・地域活性化部門



地元のイベントに参加した研究会

## 川崎町生活研究会 宮城県 川崎町

昭和 58 年に各地区の生活改善クラブが会員の減少等により統合され、平成 20 年 3 月に事業をより活発なものとするべく「川崎町生活研究会」に改組した。現在研究会では、「地場製品の活用と継承」をテーマにして郷土料理や手芸等会員それぞれが得意とする分野の講習会を継続的に開催し技術を伝えるとともに、会員相互の交流を図っている。地域の郷土料理を伝える活動の一方で、これらを現代風にアレンジし特産物に新たな付加価値をつけて発信する活動も実施。平成 25 年に川崎町教育委員会からの依頼により、小学校で地場製品を使ったおやつ作りの指導を行い、平成 26 年には、町の「かわさきっ子応援団」の学校支援ボランティアに登録となり、今後食育活動により力を入れていくことを目指す。また、元々会員個人で栽培していた雑穀（あかきび）を新たな地域の特産品にしようと、試験栽培や商品開発を開始するなど、常に新しい発想により活動の場を広げている。

## 林野庁長官賞

A. 女性地域社会参画部門



手にはグループで作成したスギ玉

## 山口 紀久子 岡山県 新見市

結婚後、家業の林業、シイタケ生産に取り組む。昭和 56 年に地域のしいたけ生産者の女性メンバーを中心として、当時としては珍しい婦人林業研究グループを設立。枝打ちや間伐の講習会、林業の基本となる技術の習得と、しいたけ生産では、品質向上や増産により農山村地域においても女性が現金収入を得て自立することを目指して活動している。近年は、グループの平均年齢が 70 歳代となり、以前のような活動は困難になったが、地域の重要な産業である森林・林業に興味・関心を持ってもらうため、孫世代に当たる小学生等を対象にした森林・林業教室を年 1 回以上開催。平成 18 年度からは、自身の所有山林で、四季折々の花や紅葉を楽しむため、地元の小学生と 0.2ha の広葉樹を中心とした「七色の森」を造成、毎年下刈り等の保育作業を実施している。また、平成元年からは岡山県森林審議会委員、平成 10 年からは県林業改良普及協会の役員として、女性の目線に立った助言を行っている。

## 水産庁長官賞

B. 女性起業・経営参画部門



魚醤「しょっつる」作ってます！

## 岡本 リセ子 秋田県 八峰町

消費者の魚離れが進む中、規格外のため安価で取引されている魚介類を加工・販売し、平成 14 年には漁家収入の安定と向上に役立てるため、秋田県漁業協同組合北部地区女性部の有志で加工グループ「ひより会」を立ち上げ（平成 19 年 4 月に法人化）。設立時より代表を務め、これら地域活性化活動を長年に亘って牽引している。地元で大量に漁獲されるハタハタを使った伝統の魚醤「しょっつる」の製造・販売に着手し商品化、町から販路開拓の支援もあり、地域の特産品として秋田空港や県内道の駅、漁協のホームページ等で販売し、好評を得る。平成 18 年 3 月には直売所をオープンし、惣菜と魚介類の一次加工品を販売。また、町内の学校給食センターや県内山間部の 2 つの学校給食センターに魚介類の一次加工品を納入し、魚食普及のための食育授業も行う。また、平成 11 年から 27 年まで秋田県漁協女性部連絡協議会会長、平成 23 年から 25 年まで全国漁協女性部連絡協議会会長を務めている。

# 農山漁村女性・シニア活動表彰

## 全国森林組合連合 会長賞

C. シニア起業・地域活性化部門



山菜料理ワークショップの様子

### 谷口 藤子 石川県 穴水町

30歳の時、「能登の自然保護の会」への入会を機に能登の山の植物の調査・観察を続けている。昭和40年頃「あすなろこけし工房」を立ち上げ、県木「あて」の枝を利用した「こけし」や、山野から得られる素材を使ったクラフト品を製作、イベントなどで展示・販売を行う。平成19年に日本特用林産振興会の山菜アドバイザーの資格を取得、山菜を通じて山の魅力を伝えたいと平成20年に林業研究会の女性メンバーでグループ「森の幸」を立ち上げる。地域の女性が活動できる場所を提供することで地域の活性化や、荒廃する能登の里山の保全活動と、食を通じて自然豊かな能登のPRを行うことを目的に活動。能登地域で採れる山菜や野菜などの地物のみを手作りにこだわって加工に取り組み、商品は県内各地の農協直売所や道の駅で好評を得ている。平成26年にはこれまで蓄えてきた能登の植物・山菜の魅力を本にまとめ出版するなど、長年の幅広い活動は能登地域の活性化、魅力発信に大きく貢献している。

## 全国漁業協同組合 連合会長賞

A. 女性地域社会参画部門



美味しいお魚普及に  
努めています！

### 子末 とし子 福井県 おおい町

昭和44年に結婚し、平成7年に大島漁業協同組合女性部に加入。地域では、魚の加工品づくり、海浜清掃、花壇や海岸沿いの花いっぱい活動等を行っている。特に、魚の加工品作りでは、地元で獲れる小魚や低価格魚に付加価値を付けようと「しまジャコ天」の研究開発を手がける。平成22年度に「おおい町水産加工センター」が完成し量産可能となり、地元の特産品として直売所や、道の駅でも販売。漁家収入の向上を図るとともに、地域の活性化を図っている。また、県内の小・中学校にて、魚のさばき方と魚料理教室を、平成14年からこれまでに約450回にわたり開催し、延べ1万人以上に指導。平成15年に大島漁業協同組合女性部部長、同年福井県漁協女性部連合協議会副会長に就任、そして平成23年には、福井県漁協女性部連合協議会会長、平成26年には、水産庁長官より「お魚かたりべ」に任命。魚食普及活動として、県内外のイベントにも積極的に参加するなど、加工品の即売・地元魚介類のPRに尽力している。

## 全国農業協同組合 中央会長賞

A. 女性地域社会参画部門



農業について講義する高橋氏

### 高橋 千代恵 宮城県 石巻市

昭和51年に結婚。水稻と養豚の専業農家となる。これからの農家は夫婦での取り組みが必要と、講習会や勉強会等にも2人で出席し、農業経営に対する考え方を共有する。平成5年に県内初の土地利用型一戸一法人を設立し、取締役となる。平成14年に桃生地区で最初の家族経営協定を締結。趣味の充実等を盛り込んだ女性目線の協定書は後続の農家の手本となり、締結農家の増加に貢献するとともに、旧中津山農協フレッシュミセス会長時代には、桃生町家計簿記帳グループ「八輪会」を設立し、農業簿記を活用し女性農業者の経営力向上に貢献。また、自ら地区の小学校に食育を提案し、大豆の栽培から豆腐作りまでを毎年指導し、子どもたちの農業に対する関心を高める活動も行う。平成24年に石巻市議会より推薦を受け市初の女性農業委員に就任。同年女性部を設立し、活動の活性化のため平成27年から自社水田を活用した親子農業体験を企画・開催。女性部と地域女性組織の相互連携を図る場の創設に貢献し、地域を越えた交流活動の拠点となりつつある。

# 平成 28 年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰

## 目的

農山漁村において女性は、農業就業人口の過半を占めているとともに、起業活動等により、地域において活躍している。しかしながら、農業委員や農協役員等に占める女性の割合は低く、地域の指導的立場への女性の登用は進んでいない。

政府として、平成 27 年 12 月 25 日閣議決定された第 4 次男女共同参画基本計画では、「あらゆる分野における女性の活躍」として目標年次の平成 32 年における具体的な目標を定めており、農業委員に占める女性の割合を 30%、農業協同組合の役員に占める女性の割合を 15% を目指すとする等、他分野に比べ遅れている農山漁村において、女性の登用を進めることが急務である。このため、次世代を担う地域リーダーとなることが見込まれている若手女性及び女性の参画を積極的に推進している組織等を表彰することにより、農山漁村における男女共同参画の取組の推進に資することを目的とする。

## 受賞個人・組織

### I . 次世代を担う若手地域リーダー部門

農林水産大臣賞

・岡山県 備前市 森安 かな

農林水産副大臣賞

・長野県 小谷村 藤原 真弓

農林水産大臣政務官賞

・群馬県 藤岡市 松本 知恵

### II . 組織における女性登用部門

農林水産大臣賞

・宮城県 栗原市 宮城県栗原市農業委員会

農林水産副大臣賞

・千葉県 船橋市 齋藤 教子

農林水産大臣政務官賞

・北海道 新冠町 泉澤 碧

主催	農山漁村男女共同参画推進協議会
後援	農林水産省
協力	全国酪農青年女性会議
特別協賛	公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

## 次世代を担う若手地域リーダー部門

### 農林水産大臣賞



単調な作業も笑顔で楽しく

#### 森安 かな 岡山県 備前市

非農家出身である森安氏は、民間企業退職後、岡山県立農業大学校に入学。平成16年卒業後、夫と共に備前市で就農。平成23年に夫と家族経営協定を締結、夫婦で部門管理体制をとっている。担当する水稻部門は農薬を使わないアヒル農法を導入し他との差別化を図る他、地元の集落営農組織と連携し、自身が開拓した販路を活用して販売を行うなど、有利販売に繋げている。平成25年農林水産省の農業女子プロジェクトに参加、平成26年に県農業士の認定を受け、地域農業の活性化や女性が取り組みやすい農業環境への改善が必要と考え、地元の農業者や営農組織との連携活動や「おかやま農業女子」設立による交流活動を展開している。また、農業高校生や農大生の若手女性とも交流し、農業現場の情報を伝えながら農業のイメージアップを図るなど次世代育成にも努めている。地域を代表する農業士として、「おかやま農業女子」の共同代表、各種委員として、農業現場や女性の立場からの意見を代弁、情報発信する機会も多く、地域農業の発展的取組に積極的に関わっている。

### 農林水産副大臣賞



雪中キャベツ収穫体験ツアー  
(一番右が藤原氏)

#### 藤原 真弓 長野県 小谷村

東京都出身の藤原氏は平成9年結婚を機に小谷村伊折集落へ移り住む。平成17年、集落全戸が加入する伊折生産組合の発足をきっかけに、翌年から棚田のオーナー田の取組を始め、都会から沢山の人が訪れるようになった。伊折の良さを訪れる人にもっと知ってもらいたいと、平成25年に行政の支援を受け、築150年の古民家を改修した農山村体験交流施設「ゆきわり草」をオープン。伊折の良さ、残したい文化や雪中キャベツ収穫体験等を若い人や都会の人達にも喜んでもらえる体験として企画し、講師は村の高齢者が勤める。この体験を目的に伊折を訪れる人も増え、都市と農村、集落内外の人の交流の場となり、高齢者にとっても生きがいとなっている。また、小谷村内外や他集落との交流を進めようと、ゆきわり草女子会を設立。小谷に住む各年代の女性が講師となり、手仕事や料理、語り部の方から小谷民話を聞くなど、交流することで、伊折の文化、小谷の文化が継承されている場作りを行っている。

### 農林水産大臣政務官賞



トマトの香りに  
癒やされています

#### 松本 知恵 群馬県 藤岡市

松本氏は、他産業から農業へと転職、夫の寿夫氏のパートナーとして、JA出荷のトマト栽培を行う。平成25年に農産加工部門「とまとや」を起業し、現在は加工部門「とまとや」と、トマトハウス一棟の栽培管理を担当。生産部門では、加工や販売で付加価値が高いフルーツトマトや色とりどりのトマトを新たに導入。加工部門では、業者に委託し高糖度のフルーツトマトブレンドジュースとフルーツトマト100%ジュースを製品化、さらに自宅の一部を加工室に改造、菓子製造許可を取得して加工品の開発と製造を行っている。SNSを活用してイベント出展、異業種交流にも積極的に取り組み、農業に対する理解を促しながら、ネットワークを拡大させ、コラボ商品づくりや販路拡大に取り組む。また、群馬県農政部が主催する、若手農業者のリーダーを育成する「フロントランナー養成塾(6次産業化コース)」の第1期卒業生として、仲間と連携したマルシェの開催や出店を行いながら、農業の魅力を発信している。

## 組織における女性登用部門

### 農林水産大臣賞



市民まつりで地元の食材をPR

### 宮城県栗原市農業委員会 宮城県 栗原市

栗原市農業委員会は、「女性農業者のつどい」や「季節の郷土料理教室」の開催、「栗原市民まつり」への出展等女性農業委員を中心とした活動を積極的に展開し、地域住民の農業委員会への理解と関心を高めており、女性の農業委員への登用促進と、農業委員会の各種事業に大きな成果を上げている。平成26年の改選では、4名の女性農業委員が全員選挙に立候補して当選、新たな選挙委員1名と選任委員3名を加え、女性農業委員数は8名となった。農業委員における女性の登用率は17.4%で、この時点での女性農業委員数は全国第1位であり、宮城県内の女性の登用率を大きく引き上げた。また、女性農業委員の活動をより強化するため、平成28年度に栗原市農業委員会専門委員会に「女性委員会」が新たに設置された。栗原市が平成17年4月の市町村合併の際に設置した3つの農地部会と、専門委員会である運営委員会、農政委員会、農業委員会だより編集委員会とともに、女性農業委員の活動が栗原市農業委員会の基幹的活動の重要な一部門として位置づけられている。

### 農林水産副大臣賞



学童農園で児童に説明する齋藤氏

### 齋藤 教子 千葉県 船橋市

齋藤氏は、平成8年7月に千葉県初の女性農業委員として船橋市において選挙により選出された。平成16年3月の「千葉県女性農業委員の会」の設立時には中心となって尽力し、会長として12年にわたり女性農業委員の登用促進と、活動のあり方について会員をけん引している。また、県内の女性団体「千葉県農山漁村女性団体ネットワーク」では研修会の企画開催、女性農業委員、審議会委員等への登用要望活動等、県全体の女性農業者の経営参画、社会参画に一層の役割を發揮し、常に男女共同参画に対する国・県の動きを理解し、目指すところに向けて会員の理解を促し、実践に繋がるよう意識啓発を進めている。また、全国段階、県段階等、出席した会議では必ず発言し、その内容も多角的な視点で、前向きな議論を進め、研修会等の効果を一層高めるものである。委員歴が長くなった今も、現地に足を運ぶことを信条とし、その場での情報発信を心がけ、参加者と意見交換することで思いを共有する姿勢は、周辺の農業委員にも大きな影響を与えている。

### 農林水産大臣政務官賞



北海道4Hクラブ主催行事にて

### 泉澤 碧 北海道 新冠町

泉澤氏は就農5年目(平成26年7月)に、新冠町議会の推薦によって全国最年少の27歳で女性農業委員に就任した。地域でも、地元小学校の社会科見学(農業体験)の受入や放課後子ども教室での野菜作りの指導を行い、子供たちが農業に親しみ、理解を深める活動などに貢献するほか、出身大学や地元農業高校において講演を行い農業・農村の魅力や自身の活動内容を発信することで、就農促進・農業への理解醸成に貢献している。また、地域の青年・女性農業者として、北海道4Hクラブ連絡協議会の理事や全国農業青年クラブ連絡協議会の北海道ブロック理事に就任する他、農業女子ネットワーク「はらべ娘」の設立からのメンバーとして若い世代の女性農業者による新しい発想や価値観を活かした活動に積極的に取り組んでいる。こういった若者・女性の活動を広げていくことにより更なる若者(後継者や新規就農者)を地域に呼び込むことを目指して、日々努力を続けており、北海道内でも数少ない女性農業委員として、女性の社会参画・地域活性化のモデル的存在として、今後とも益々の活躍が期待される。